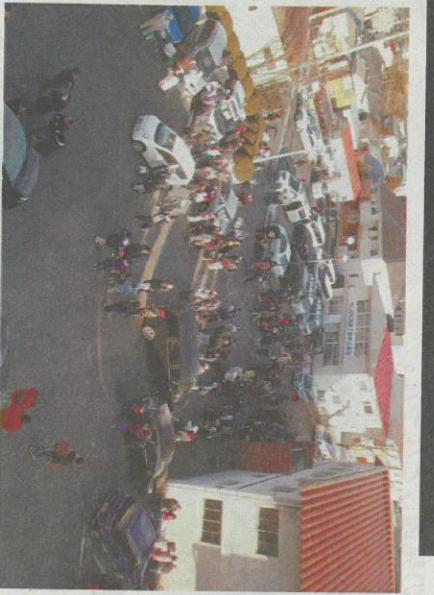


どうじて、いよいよになつてしまつたのか。3月12日午後3時半、福島第一原発から約5キロの大熊町役場の玄関で、企画調整課長の秋本圭吾(58)が車に乗り込もうとしていた。吾が車に乗り込んだ。全町民約1万一千人の避難がほぼ完了し、役場に残っていた職員数人も避難するにになつたのだ。

かなんだ。  
かなるじと思つていて…。秋本は唇を  
東日本大震災の発生直後、町は役  
場2階に災害対策本部を置いた。町は役  
中が停電したが、災害対策本部は非  
常用発電機で照明やテレビをつけた  
ところができた。町内にどんな被書が

避難のため大熊町内の体育馆に集まつた  
住民 二〇一一年三月二日午前7時30分



# 「今」の社会の政治・経済

報  
伝  
わ  
り  
す

う。そこにはいつも書かれていた。「念」のた  
はできだが、誰も口には出さなか  
原発が町にあり、安全神話を過信し  
町長の渡辺利綱(63)は「40年間、  
しまった。

「念」があらに秋本の判断を鈍らせてい  
須田和夫(51)ら2人がやってきた。  
なとときに正確な情報を迅速に伝わっ  
ていたところもある。ただ一番大事  
日日夜に第一原発から広報担当の  
須田は曰うから、原発の安全性  
や必要性を広報していく顧みじみ  
れるか。職員たちは情報収集に追わ  
原発担当の秋本は第一原発免震重  
だ。

出でいるか、住民は無事避難できて  
須田和夫(51)ら2人がやってきた。  
なとときに正確な情報を迅速に伝わっ  
ていたところもある。ただ一番大事  
日日夜に第一原発から広報担当の  
須田は曰うから、原発の安全性  
や必要性を広報していく顧みじみ  
れるか。職員たちは情報収集に追わ  
原発担当の秋本は第一原発免震重  
だ。

引いでいる「大丈夫なのか?」「これから  
町は国から避難指示が出たことを  
うなるんだ?」。そう尋ねる秋本ら  
防災無線で広報した。避難所となるつ  
た。職員に、須田は「環境への影響は確  
いていた体育馆や集会所から、住民を  
乗せたバスが次々と出発していく  
2原発との専用電話で、第一原発の  
認されていました。発電所は復旧に  
断線したのかもしれない。秋本は第  
原子炉停止を確認した。

「それで『大丈夫』と思つてしま  
った。町の津波被書の方に気持ちが  
る状況にすべく、情報を正確にお伝え  
第一原発から「原子炉水位が確認  
する」とに徹していまじた」と須田  
原発の方角で大きな音がして土壘  
の煙が空高く上がった。(散称略。  
いつしまつたんだ」

「その時の私は見通しを説明でき  
役場を出ようとしていた。

秋本ら残った職員も施錠を終え、  
繰り返した。

向けて「一生懸命頑張つていて」と  
た。

「それで『大丈夫』と思つてしま  
った。町の津波被書の方に気持ちが  
る状況にすべく、情報を正確にお伝え  
第一原発から「原子炉水位が確認  
する」とに徹していまじた」と須田  
原発の方角で大きな音がして土壘  
の煙が空高く上がった。(散称略。  
いつしまつたんだ」

いふか、須田も町の職員たちも想像  
でできず注水状況が不明」とのフタク  
でスが来た。原子力災害対策特別措置  
法15条(緊急事態)に該当するとい  
いのまま事が悪化すれば何が起  
年齢、肩書きは當時。共同通信 小野  
田真実(63)

**正確な情報伝わらず**

# 全電源喪失の記憶

■ 第2章「1号機爆発」

でできず注水状況不明とのマスクは説明する。  
原発の力角ナギをいじ力」と云ふじて士色  
の煙が空高く上がつた。(敬称略。)  
でスが来た。原子力災害対策特別措置  
いのまま事態が悪化すれば何が起年齢、肩書きは当時。共同通信 小野  
法15条(緊急事態)に該当するとい  
いが、須田も町の職員たちも想像 田真実)